

令和6年度第2回徳島市立考古資料館協議会抄録

- I 日 時 令和7年3月18日(火) 10:00～11:30
- II 場 所 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協 議 会 中村会長、須藤副会長、安西委員、蔭山委員、菅原委員、
板東委員、湯浅委員
教育委員会 岡田課長、北村課長補佐、平山管理係長、宮城文化財係長、
堤主査、板東主事
考古資料館 北島館長、倉佐事務長、村田主任学芸員、大栗学芸員

IV 内 容

- 1 市民憲章唱和
- 2 自己紹介
- 3 あいさつ(岡田課長・中村会長)
- 4 議題
 - (1) 令和6年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告(資料1)
—令和6年4月1日から令和7年2月28日まで—
 - (2) 令和7年度 徳島市立考古資料館事業計画(資料2)
 - (3) その他

V 主なご意見

令和6年度徳島市立考古資料館主要事業概要報告等に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

- ◇ 今回事前に送付いただいた9～2月分の事業終了報告書についてですが、下半期に行われた企画展や体験学習活動などについて、ずいぶんと手間をかけて作成されているように感じますが、これは今期になって作成を始めたものでしょうか。また、資料館の内部記録としてまとめたものでしょうか。
- ◎ 事業終了報告書は3年ほど前から作成しており、各事業終了時にまとめたものを月次報告に添付し教育委員会に提出、事業の評価の材料として共有しています。
- ◇ 市内中学校から資料の保管の申し出があったとのことですが、どのような資料がありましたか？
- ◎ 考古資料としては教材用の土器類の複製模型のほか、藍染めに係る道具類、江戸時代のものと思われる帳面などがありました。
- ◇ 終了報告の中に記載されていたアンケートについてですが、アンケート中に企画展、講演会に対する満足度の項目があり、「大変良かった」から「悪かった」までを6段階

で区切り、それらひとつを選ぶアンケートの形式ですが、この区分でアンケートを取った場合、来館者がネガティブ側を選ぶことはほぼなく、「良い」に票が集まり易く、実際この各企画のアンケートでもおおむね「良かった」になっています。これは企画を見るためにわざわざ資料館に来ている来館者の意見なため、ポジティブな評価を下しやすいのだと思います。ただ多くの来館者は専門的に構成された企画展などをジャッジする情報を持っていないため、客観的な評価にはつながらないように思います。「良かった、悪かった」といった評価軸は客観性を担保するものでなく、企画の良し悪しを分析するうえで適切ではないと考えます。専門家ではない人たちの意見で企画を評価するのならば「判り易い、判り難い」といった企画内容の理解に関する評価基準が適切ではないでしょうか。

- ◇ 続いてアンケートについてですが、項目中に自由に意見、感想を書き込む覧があり、少数ではありますが講座や企画に対する具体的な要望があり、これらを拾い上げることで次につながるのではないかと思います。
あと国府中学校の資料ですが、これは一時的に預かっている状況なのか、それともいずれは寄託される物なのでしょう。
- ◎ 中学校側ともその点で話を詰めてはいないのが現状です。中学校側の要望として校舎の改装中は資料館での保管と資料自体が古くから戸棚に収納されたままのものが多く、来歴も資料自体の性格も不明なため、資料の評価、鑑定をお願いしたいとのことでした。その後資料を改装後の学校に戻すのか、どこかに寄贈するのかなどはまだ決まっていません。資料の処遇については今後学校側と話をしようと思っています。ただ、もし寄贈という形をとるのであれば、資料は民俗資料や自然史資料、学史的なものなど様々な性格のものがありますが、あちこちに分散させるのではなく、一括での寄贈保管が望ましいと考えます。今後学校側の意向を確認したいと思います。
- ◇ 考古学会や地方史会の界限では学校に保管されている考古や自然史資料を「学校資料」と呼んでそれらをどのように保存、活用するかが問題となっていて、専門の書籍の発刊やその問題に関する講演会等が中央では行われているそうです。今回と同様、資料の保管をどうするのも切実な問題となっていて、個人が集めた考古資料なら博物館で扱えばよいのですが、学校の地方史研究会などが集めた資料なら、その活動自体が学校の歴史でもあるわけで安易に扱えない点もあります。ただ少子化で学校数も年々減ってきている中、廃校の憂き目を見た「学校資料」は行き場をなくし、廃棄されたり、倉庫に収納されたまま忘れ去られていたのがこれまででしたが、現在「学校資料」が文化財であるとの認識のもと、事態を改善しようと各学会団体が啓蒙活動を行っています。これは文化行政自体が考えなければいけない問題ではありますが、考古資料館も難しい点はあると思いますが、地域の博物館として考えていただければと思います。
- ◎ 中学校資料を見ましたが、藍商に係る資料があり当時の産業資料として意味のあるものだと思います。学校で保存している事を考えれば寄贈品や、学校活動の中で収集したものだと思うので、個人的な考えですがやはり学校で生徒たちに見てもらい活用できる仕組みを作ることができればと思います。他所に移設してしまうと資料の意義が変わっ

てしまうのではとも考えます。

- ◎ 学校資料の中に標本模型が幾点かありましたが、これらの制作会社がドルメン社と云い活動期間が短く、全国で見ても現存している資料が少なく貴重であり、また有名な考古学者が代表だったそうで、そのあたりを深堀すると考古学史的にも興味深い話になるのではと思います。
- ◇ 中学校に努めている立場での意見ですが、現在徳島市では老朽化した中学校舎の長寿命化工事を進めていて、当該校では戸棚や倉庫に眠っていた物の整理で大変だと思えますので、考古資料館での一時保存や、資料の鑑定をしていただけるのは大変ありがたい事だと思います。私も実際に中学校の改築時に在籍し倉庫整理に当たりましたが、学校の歴史に係るような校名を刻んだ古い額であるとか、書籍や収集資料など色々なものが数多く保管されていました。汚損されているものもあり、仕分けには苦勞した覚えがあります。職員の移動があるため、収集した資料の来歴も不明なものも多く、価値付けができずそのまま倉庫にしまい込んだものも多かったです。資料館のような施設で資料の鑑定評価が受けられるのであれば、展示するブースを設けることはできると思いますので、「学校資料」の整理、活用は可能だと思います。
- ◇ 職場体験についてですが、どのような体験内容になるのでしょうか。
- ◎ 今回行った職場体験では実際に出土した国分寺の瓦を使い、実測、拓本、写真撮影など調査研究に係る学芸業務を主に体験してもらいました。
- ◇ 学校によっては自転車で通える範囲内が職場体験の可能な施設となるため、資料館で職場体験を受けられる生徒は限られますが、ある一定数、埴輪や土偶などに興味関心を持つ生徒は居ますので、そういった子供たちの受け皿になっていただければと思います。
- ◇ 国府小学校についてですが来年開校150周年を迎えます。歴史のある学校であり、以前は資料室に収集、寄贈資料が多数収容されていましたが、やはり時を経るなかで整理され数を減らしているようです。

学区内にある考古資料館ですが、西寄りになるため子供たちの利用はそれほど多くないと感じます。史跡公園とセットで遊べ、学べる良い施設なのですが、自転車に乗れる高学年の子供たちも最近の子らしく外で遊ぶ機会が減っているようです。利用の促進に関しては校長会等で資料館利用案内のパンフレットやイベント、体験学習のチラシなどの配布で告知していただいておりますが、年度始めなどは職員室も慌ただしく職員間での周知が出来ていないのが現状ですので、時期をずらすなりして告知広報をしていただければと思います。メディアを使った広報でもラジオなどより、SNSの方がより効果的だと思いますので、児童の資料館の積極利用を促したいと考えます。
- ◇ 利用促進についてですが、一宮や国府地区にも婦人会がありますので、そういった地域の活動団体等に対し国府の史跡群、渋野の古墳群、一宮城跡など地域の文化財をみなおしてみようと働きかけています。また、近在の方でも資料館を訪れた事のない人もま

だまだいますので、そういった人々にも資料館利用を促したいと思っています。

- ◇ 県の博物館協会の連携講座の「アワカルト講座」についてですが、もう講座内容などは決まっているのですか。
- ◎ 新年度についてはすでに決定していて私は「美郷ホテル館」で講座を受け持つことになっています。
- ◇ 協会の連携として、以前は広報誌を発行することぐらいしかなかったので連携講座は大変良い企画だと思います。博物館間の連携、講座の実施など館の実績として積み上げていただければと思います。
- ◎ 職場体験についてですが、資料館で職場体験を受けたくても交通の足がなくて断念している生徒は居るのでしょうか。
- ◇ 職場体験できる施設は学校側で開拓していて、授業時間内で行き来でき、また保護者の負担にならないよう生徒たち自身で行動できる距離内、かつ各職場に教師が見回るため範囲はどうしても絞られます。基本校区内及び公共交通機関沿線となり、保護者が務めている会社などの例外を除けば、生徒の希望で校区外の施設を指定することはあまりないと思います。
学校側としては公的機関、商業施設、サービス業など多種多様な職場を用意して生徒たちに体験してもらい、後に感想を発表して体験記をまとめて生徒間で情報を共有しています。
- ◎ 個人的にですが校区を越えてあちこちの学校から資料館へ職場体験に訪れてくれればと思いお聞きしました。そのうえで訪れるのにネックになるのが交通の便ならば、去年度本年度とほとんど需要のなかったバス助成を使う選択肢もあるのでと考えています。
少しでも考古学や文化行政に関心を持つ人を増やしたいと思っています。
- ◇ 考古学や博物館に関心のある生徒は多くはなくても必ず一定数はいるはずなので、そういった子供たちに考古学や博物館の学芸業務に触れるチャンスを与えてほしいと思います。また資料館以外でも JR 沿線なら徳島城博物館や小規模な文化施設はあちこちにありますので考古とは違っても選択肢として用意していただければと考えます。
- ◇ 徳島城博物館は今年度の体験施設開拓から漏れていましたが、来年度はお願いしたいと思います。
- ◇ 城博は職場体験を受け入れていますのでぜひ。確か以前職場体験に参加した生徒さんがその後他県の博物館学芸員として勤めているそうです。
- ◇ 考古とは異なりますが近年の恐竜ブームで古生物学に関心を持つ子や、素焼きの土器を夏休みに自由研究で作って文化祭で展示していた子などいますので、考古学や博物

館に関心のある潜在需要は多いのだと思います。

- ◇ 以前勤めていた埋蔵文化財センターでは毎年「勾玉づくり」を行っていたのですが例年参加される親子連れがいて、年を追うごとに勾玉の制作練度があがっているのを子供の成長として喜んでいる親子がいてほほえましく感じました。
- ◇ 第8回の考古資料館講座「弥生時代終末期の社会を考える - 邪馬台国はどこか -」の参加者数50人とありますが、私も参加していて研修室は満員で廊下に列をなして並ぶほどで、50人参加は少ないように思うのですが。
- ◎ 実績報告としては定員上限の数値を記載しており研修室外の方たちは参加者数としてカウントしていません。
- ◇ 参加者アンケートで満足度はどのようなものでしたか。
- ◎ おおむね好評でしたが、邪馬台国に関してはいろいろな歴史観を持っている人がいますので、そういった考えを記す方もいました。
また基本畿内の弥生時代終末期の様相を解説する講座でしたので、邪馬台国の所在について明言されることを期待していた、という方もいました。
- ◇ 極端な言説は面白いゆえに波及力があり、伝播しやすいように感じます。考古資料館のような公的施設は考古学、特に弥生終末から古墳時代前期にかけては学術的データに基づいた学問的発信を根気よく続けていく必要があると思います。